

鳥取大学乾燥地研究センター 令和9年度 アライアンス・プラチナ枠による 共同研究公募要項

植物研究拠点アライアンス (Plant Science Core Alliance; PSCA) は、文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点の内、主として植物の研究を実施する拠点が連携し、植物研究を強化するために設置された拠点連合です。PSCAに参加する拠点は次のとおりです。

- ・筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター「形質転換植物デザイン研究拠点」
- ・大阪公立大学附属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」
- ・鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」
- ・岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」
- ・琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」

PSCAの詳細はホームページをご覧ください。 <https://psca-jurc.com/>

PSCAでは、「アライアンス・プラチナ枠」による共同研究を公募します。「アライアンス・プラチナ枠」は、申請者が2拠点以上の対応教員とチームを組み、それらの拠点の特長を生かして、設置された施設・設備を利用して行う共同研究です。

「アライアンス・プラチナ枠」の申請により、研究者間のネットワークが明確になり、さらに交流が活発になることで、各研究の一層の進展が期待されます。

乾燥地研究センターでは、「アライアンス・プラチナ枠」としての一般研究を募集します。

なお、「アライアンス・プラチナ枠」は、公募の時期や締め切りが、従来の共同研究公募と異なっていますので、ご注意ください。

1. 研究種目及び採択件数

一般研究「アライアンス・プラチナ枠」 若干数

(各拠点における1件当たりの申請上限額※)

(鳥取大学 40万円 筑波大学 40万円 大阪公立大学 30万円 岡山大学 30万円
琉球大学 20万円)

乾燥地科学における新たな展開が期待される先駆的な研究、かつ2拠点以上の施設・設備を利用した研究。申請者(研究代表者)の独創的かつ自由な発想に基づく、課題提案型の共同研究で、複数の拠点にまたがって研究を行う。乾燥地研究センターでは、研究代表者及び研究分担者がセンター共同研究教員と協力して行う。

※使用可能予算：申請拠点および利用拠点の予算上限は上記のとおり

例) 鳥取大学へ申請、筑波大学、琉球大学を利用する場合

→ 鳥取大学40万円、筑波大学40万円、琉球大学20万円を上限としてそれぞれ使用可能

※ただし、各大学の予算の使途がそれぞれ異なります。下記表1をご参照ください。

研究期間：1年間 令和9年4月1日～令和10年3月31日

(継続のための再応募は妨げないが、同一課題での申請は最長3年までとする。)

2. 経 費

(鳥取大学で利用できる経費)

本共同研究に直接必要となる経費に限り、申請及び使用が可能です。当該経費は、予算の範囲内で鳥取大学の各規則、規程等に基づき、本センターにおいて支出します。各研究者へ配分した当該年度の予算は、原則として2月末日までに執行してください。

(他拠点で利用できる経費)

各大学の各規則、規程等に基づき、当該拠点において支出します。

拠点経費の支出方法等につきましては、それぞれの大学の事務局へお問い合わせください。(14. その他の項目へ各拠点連絡先を記載しています)

表1. 各拠点経費の使用可否

研究種目	大学名	予算額(万円)	研究費	集会開催費	旅 費							
					国内旅費			外国旅費		外国からの 招聘旅費		
					拠点まで	調査研究	学会発表	調査研究	学会発表	拠点まで	調査研究	学会発表
アライア ンス・ プラチナ 枠	鳥取大学	40	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○
	筑波大学	40	○注1	△注2	○注3	○注3	×	×	×	○注3	○注3	×
	大阪公立大学	30	○注1	×	○注2	○注2	×	○	×	○	○	×
	岡山大学	30	○注1	×	○注2	×	×	×	×	×	×	×
	琉球大学	20	×	×	○	○注1	×	○注1	×	○	○注1	×

表1における各大学の注意事項

【鳥取大学】3 ページ「費目毎の注意事項（申請時及び採択後）」をご覧ください。

【筑波大学】

注1) 以下の用途で使うことができます。研究遂行にあたり必要となる消耗品（ただし一般的な事務用品を除く）、当センターでの実験にあたり必要となるリソース類の送料、当センター共通機器利用料、什器類、謝金

注2) 研究集会、当セミナーの会場借料

注3) 共同研究のための来学旅費及び当センターで実施する研究集会、セミナーに係る招聘旅費に限り旅費の請求可とします。やむを得ず当センター以外へ出張が必要な場合はその主旨により相応しく波及効果も十分に予想されるとセンター長が判断した場合に限り認めるものとします。

旅費の対象となるのは研究課題代表者及び「研究参加者リスト」により事前に届出があったものとします。

【大阪公立大学】

注1) 研究費は、以下に限ります。

① 消耗品費（単価10万円未満の物品、但し換金性の高いパソコン、タブレットは除く）及び単価10万円以上の物品のうちおよそ1年以内に消耗する物品（実験等で

消費する試薬や金属片など）。書籍、ソフトウェア、ジャーナルの購入はできません。原則、納品場所は本園となります。

- ② 解析にかかる委託費用
- ③ サンプルや実験器具等の郵便運搬料（当園発着に限る）

注2) 支出は、本共同研究にかかる調査研究のための旅費に限ります。

- ・学会発表のための旅費は支出できません。
- ・自家用車（公用車を含む）を利用した場合の旅費精算はできません。
- ・旅費は、「公立大学法人教職員等以外の旅行に関する要領」及び「公立大学法人大阪教職員等以外の旅費の支給に関する要領」に基づいて算出し支給します。
- ・旅費支給の対象は、研究代表者及び申請書の「7. 研究組織」に明記された者に限ります。

【岡山大学】

注1) 消耗品費のみ支給可能です。本学受入教員に配分しますので、執行については本学受入教員までご相談下さい。

注2) 共同研究者の岡山大学資源植物科学研究所への来所に係る旅費についてのみ支給します。詳細については、岡山大学資源植物科学研究所受入教員または事務室共同研究担当にお問い合わせください。また、複数拠点に連続して出張する場合、各拠点でどの区間の旅費を負担するか協議が必要となるため、必ず各拠点の受入教員へその旨を連絡してください。

【琉球大学】

注 1) 本センター施設を目的地としない場合の旅費については、申請時に計画でそのことが記載されている場合に限り支出可能とします。

費目毎の注意事項（申請時及び採択後）

■鳥取大学

○ 研究費

- ・ 物品については、消耗品（単価10万円未満の物品（換金性の高いタブレット、デジタルカメラ及びビデオカメラは除く。）、及び単価10万円以上の物品のうちおよそ1年以内に消耗する物品）に限ります。
- ・ 下記の項目等については、予算計上及び支出することはできません。詳細は、事務手引きをご参照ください。
 - 各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）
 - 汎用的な事務機器（パソコン、プリンタ等）
 - 毒物・劇物、医薬品等
 - 継続的に実施する研究補助、事務補助等に係る人件費
 - 書籍（雑誌、地図、辞書等の消耗品扱いの書籍を除く。）
- ・ 謝金については、調査補助謝金、論文校閲謝金、翻訳謝金、指導助言謝金が予算計上可能です。（学生の場合を除く。）
- ・ 経費を使用する際は、購入を希望する物品、役務、業務委託等の情報もしくは見積書の写しを国際乾燥地研究教育機構会計係宛に送付してください。
- ・ 見積書・納品書・請求書の宛名は、「鳥取大学」宛としてください。
- ・ 本学契約課より発注後、指定された場所に納品されます。納品場所が共同研究者の所属機関の場合は、共同研究者に検収して頂きます。納品書に、共同研究者の受領印及び検収日を記入のうえ、納品された月中に必ず国際乾燥地研究教育機構会計係に送付してください（請求書・見積書が所属機関に届いている場合は、あわせて送付してく

ださい)。

- ・ 大型設備利用料については、四半期経過後、翌月 15 日頃に利用実績額を研究費の執行額として計上します。ただし、1～3 月分については、3 月の利用見込みを含めて 3 月 15 日頃に計上します。(3 月の利用予定に変更のある場合は、2 月中にセンター共同研究教員までご連絡ください。)

○旅 費

- ・ 国内旅費は、本センターまでの旅費(研究打合わせ、共同研究の実施、共同研究発表会参加等)、及び本共同研究の成果発表(学会等)のための旅費に限ります。
- ・ 外国旅費は、調査研究旅費又は成果発表(学会等)のための旅費に限ります。
- ・ 招聘旅費は、海外から研究分担者等を国内に招聘する場合の旅費です。本センターまでの旅費(研究打合わせ、共同研究の実施、共同研究発表会参加等)、及び本共同研究の成果発表(学会等)のための旅費に限ります。
- ・ 共同研究発表会の発表者参加に係る旅費については、各研究課題につき 1 名まで研究費とは別に旅費を助成いたしますので、予算計上は不要です。
- ・ 上記の目的以外のための旅費(特に、本センター以外での研究打合わせ)は、予算計上することはできませんので、ご注意願います。
- ・ 研究代表者、研究分担者及びセンター共同研究教員以外の旅費を支出することはできません。
- ・ 成果発表終了後には本共同研究の成果発表であることが確認できる書類(要旨集等の写し)をセンター共同研究教員に提出してください。
- ・ 事務処理簡素化のため、出張依頼書は原則として送付しませんので、ご了承願います。(特に必要な場合は、事前にご連絡ください。)
- ・ 2 月及び 3 月に計画された出張については、なるべく 1 月末までに会計係へご相談ください。

また、以下の大型設備について、利用料(以下、大型設備利用料という。)を共同研究経費にて負担いただきますので、利用予定の場合は必ず経費に計上して申請してください。

ただし、大型設備利用料は本共同研究経費または本学が予算管理するその他経費以外では負担(支出)することが出来ませんので、ご注意ください。

表 2. 大型設備利用料の料金単価

(令和 8 年度実績。令和 9 年度は改訂する場合があります。)

(1)

大型設備名	1 日当たりの料金単価
① 乾燥地植物地球温暖化反応解析システム	@ 750 円/日
② 乾燥地環境再現実験設備(亜熱帯砂漠シミュレーター)	@ 2,050 円/日
③ 乾燥地環境再現実験設備(冷涼帯砂漠シミュレーター)	@ 2,050 円/日
④ 砂漠化機構解析風洞システム	@ 650 円/日
⑤ 乾燥地植物気候変動応答実験設備	@ 1,150 円/日

(2)

装置（測定方法）	1 測定当たりの 料金単価
① IR-MS	@ 150円／測定
② ICP-MS	@ 250円／測定
③ LC-MS	@ 200円／測定
④ CNコーダー	@ 250円／測定
⑤ 全有機炭素・窒素分析装置	@ 150円／測定
⑥ 原子吸光光度計	@ 150円／測定

3. 申請・参加資格

(1) 研究代表者

研究代表者として、申請資格を有する者は以下のとおりです。

イ～ニのうちいずれかに該当する機関に所属し、各所属機関の職務の一環として本共同研究を実施できる者

イ. 国公立の大学、大学院、短期大学及び高等専門学校

ロ. 大学共同利用機関

ハ. 国、地方公共団体、独立行政法人又は地方独立行政法人の設置する試験研究機関

ニ. 国又は独立行政法人の設置する省庁大学校

※ただし、拠点に所属している者が、所属拠点を利用拠点として申請することは禁止とする。

(2) 研究分担者

研究分担者は、研究代表者、センター共同研究教員とともに研究組織を構成する者で、研究代表者と協力しつつ、分担して採択された課題に関する研究を行う者のことをいいます。研究分担者として、研究組織に参画させることのできる者は以下のとおりです。

① 上記（1）に掲げる申請資格を有する者

② 上記（1）①イ～ニのうち、いずれかに該当する機関に所属する大学院生（但し、指導教員等の許可を得ること）

③ 日本国外における①又は②に相当する者

(3) 研究組織の変更

研究代表者の変更、研究分担者の追加等が必要となる場合は、変更・追加する者の氏名・所属・職名、および理由等を事前に国際乾燥地研究教育機構会計係まで連絡願います。

4. 申請方法

申請者は、事前に各拠点共同研究教員（別紙1参照）の許可を得て十分に打合せを行い、申請書（様式1・Wordファイル）及び承諾書（様式2・研究代表者及び研究分担者の所属長が作成したもの。公印不要・PDFファイル）を電子メールにて提出してください（各2MB以内）。

なお、申請書様式は、センターHP（<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/platinum.html>）からダウンロード可能です。

5. 提出先（電子メール）

鳥取大学国際乾燥地研究教育機構会計係 E-mail : j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp
(メールタイトルは「令和9年度共同研究課題申請書(申請者氏名)」としてください。)

6. 応募締切

令和8年10月16日(金)

7. 選考

採否及び採択額は、申請内容、予算状況等を検討・勘案の上、アライアンス・プラチナ
枠選考会議において審議の上、乾燥地研究センター共同利用・共同研究拠点運営委員会で
最終決定します。

8. 採否の通知

令和8年11月下旬に、申請者(研究代表者)に電子メールにて採否の内定を通知します。
採択決定通知は、令和9年3月末までに電子メールにて送付します。

9. 同一の申請者における重複申請の制限

前項の内定通知を受けた申請者については、本センターが別途公募する共同研究に対し、
新規及び継続申請はできません。

10. 共同研究の成果発表

本共同研究による研究成果を公表する際には、当該論文・報告等に謝辞として「本共同
研究により得られた成果である旨」を必ず明記し、課題番号を含めて記載してください。
なお、謝辞の記載例は以下のとおりですので、記載の際の参考としてください。ただし、
二重下線部分については、必ず記載してください。

なお、謝辞の文言については、会計係にご確認ください。

(例) 和文の場合

本研究は植物研究拠点アライアンス共同研究により、鳥取大学及び〇〇大学から助
成を受けたものです。(課題番号No. #####)

英文の場合

This work was supported by the Plant Science Core Alliance (PSCA) of the Joint
Usage/Research Centers conducted at Tottori university, 〇〇 University (課題番号
No.#####).

※当該論文ないし報告等の別刷または写し1部を本センターに提出してください。また、
研究成果の発表の際には、可能な限りアライアンスのロゴマークを付記してください。
(ロゴマークは、次のURLからダウンロードしてください。

<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/psca-logo.html>

1 1. 研究成果の報告について

共同研究の研究代表者は、令和10年3月31日（金）までに、研究成果の報告書（様式3）を作成し、電子メールにてWordファイルを提出してください（2MB以内）。また、報告書様式は、センターHP（<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/platinum.html>）からダウンロード可能です。

（メールタイトルは「令和9年度共同研究課題報告書（申請者氏名）」としてください。）

なお、報告書に記載した内容は、本センターのAnnual Report（年報）及びウェブサイトに掲載いたしますので、あらかじめご了承ください。

1 2. 共同研究発表会について

研究代表者は、令和10年度開催の植物研究拠点アライアンス交流会（例年5～6月開催）において、オンラインでの成果発表を行っていただく予定です。

また、本センターの共同研究発表会（※令和9年12月上旬に開催予定）に参加し、研究成果の発表（ポスター発表）を行うこともできます。発表会発表者の参加に係る旅費については、各研究課題につき1名まで、研究費とは別に旅費を助成いたします。

発表会発表予定者以外の参加に係る旅費は研究費で計上可能ですので、申請の際は忘れず計上してください。ただし、研究代表者及び研究分担者以外の旅費を支出することはできません。

1 3. 知的財産権の取扱い

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前にセンター共同研究教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署へのご連絡をお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

1 4. その他

- （1）本学以外の共同研究員が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また、学生が共同研究に参画する場合は、傷害保険「学生教育研究災害傷害保険」等に参加させてください。

なお、本センター以外の拠点からは、保険証書の写しの提出を求められる場合があります。

- （2）申請にあたり、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

なお、各拠点の公募要項については、PSCAのホームページ（<https://psca-jurc.com/>）の「公募情報」ページからご覧ください。

また、各拠点の概要、活動内容及び設備等の詳細については、ホームページをご覧ください。

鳥取大学国際乾燥地研究教育機構 会計係

〒680-0001 鳥取県鳥取市浜坂1390

電話：0857-30-1010 FAX：0857-29-6199

メール：j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp

HP：<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/>

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-6006 FAX：029-853-7723

メール：ptrad@gene.tsukuba.ac.jp

HP：<https://www.t-pirc.tsukuba.ac.jp/>

大阪公立大学附属植物園 拠点事務担当

〒576-0004 大阪府交野市私市2000

電話：072-891-2059 FAX：072-891-2101

メール：gr-bg-res@omu.ac.jp

HP：<https://www.omu.ac.jp/bg/>

岡山大学資源植物科学研究所 共同研究担当

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-20-1

電話：086-434-1247 FAX：086-434-1249

メール：kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp

HP：<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/>

琉球大学知創推進部 研究推進課 共同利用施設第一係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話：098-895-8036 FAX：098-895-8185

メール：knkuodor@acs.u-ryukyu.ac.jp

HP：<https://tbc.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

別紙1 令和9年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野、研究内容及び連絡先一覧

(鳥取大学乾燥地研究センター)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス… @tottori-u.ac.jp
岸井 正浩	教授	植物遺伝育種学	野生種の強ストレス耐性・新規形質活用による作物改良	mkishii
木村 玲二	教授	気象学	大気境界層内における気象現象の観測と物理的解明	rkimura
黒崎 泰典	教授	ダスト気候学	ダスト(黄砂)の時間空間分布。風、土壌・地表面状態とダスト発生(風食)の関係	kuro
坪 充	教授	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業	tsubo
藤巻 晴行	教授	乾燥地灌漑排水学	節水灌漑、ウォーターハーベスティングと塩類集積対策	fujimaki
安 萍	准教授	植物生理生態学	乾燥地における農業生産の向上および植生の回復	an.ping
石井 孝佳	准教授	植物細胞遺伝学	染色体工学による新規作物改良技術の創造	ishii.t
井芹 慶彦	准教授	水文学	乾燥・半乾燥地における水文気象モデリング	y.iseri
谷口 武士	准教授	微生物生態学	乾燥地で生育する植物共生微生物の生態学と生態系修復	takeshi
寺本 宗正	准教授	陸域炭素循環学	土壌炭素フラックスを中心とした物質循環に関する研究	teramoto.m

(筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス ...@u.tsukuba.ac.jp
菊池 彰	教授	植物生理学	植物の環境ストレス耐性、ジャガイモの塊茎形成に関する研究	kikuchi.akira.ft
柴 博史	教授	植物遺伝学	オミクス解析による植物の生長・発生に関わる制御機構の解明	shiba.hiroshi.gm
壽崎 拓哉	教授	植物分子遺伝学	植物微生物共生および植物の環境応答機構の解明	suzaki.takuya.fn
福田 直也	教授	蔬菜・花卉学	野菜類における機能性物質蓄積制御機構の解明	fukuda.naoya.ka
松倉 千昭	教授	作物学 植物生理学	果実代謝生理、糖転流制御、バイオスティミュラント等	matsukura.chiaki.fw
三浦 謙治	教授	植物分子生物学	植物による有用タンパク質生産および植物におけるゲノム編集汎用化技術の構築	miura.kenji.ga
康 承源	准教授	蔬菜・花卉学	花卉植物の芳香成分解析及び生合成関連遺伝子の機能解明 果菜類のストレス耐性(耐暑性, 耐寒性, 耐病性など)に関する研究	kang.seungwon.ga
Diana Buzas	准教授	植物分子遺伝学 エピジェネティクス	長期細胞記憶、多年生作物と野生植物	buzas.mihaela.ka
小口 太一	助教	植物分子・生理/ 植物バイオテクノロジー	植物の環境応答機構/バイオマス増産	oguchi.taichi.ge
野崎 翔平	助教	植物生化学	生化学的解析による植物シグナル伝達機構の解明	nosaki.shohei.ff
野中 聡子	助教	植物分子育種	ゲノム編集技術を利用した作物の開発、果実発達生理解析	nonaka.satoko.gt

(大阪公立大学附属植物園)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス …@omu.ac.jp
名波 哲	大学院理学研究科教授	植物生態学	植物の多様な性表現と個体群維持機構に関する生態学的研究	snanami
伊東 明	大学院理学研究科教授	植物生態学	植物の更新過程と多種共存機構に関する群集生態学的研究	itoha
岡澤 敦司	大学院農学研究科教授	植物バイオテクノロジー 作物保護化学	植物による有用物質生産と生物機能などの利用による作物保護に関する研究	j21191y
平井 規央	大学院農学研究科教授	昆虫生理・生態学 保全生物学	希少種の保全、有害動物・昆虫の管理に関する研究	hirai
小口 理一	大学院理学研究科准教授	植物生理生態学	環境の変化に対する植物の多様な応答について物質生産の視点から研究	oguchi
厚井 聡	大学院理学研究科准教授	植物進化形態学	極限環境に適応した植物の形態進化に関する進化発生学的研究	skoi
吉川 徹朗	大学院理学研究科准教授	群集生態学	生態系における多様な生物間相互作用の構造と機能に関する研究	yoshikawa_t
上田 昇平	大学院農学研究科准教授	動物生態学	動物の進化と種多様化における種間相互作用の役割の解明	sueda
野田 博士	大学院理学研究科特任助教	植物系統分類学・ 島嶼生物学	植物の形態形質と遺伝情報に基づいた系統分類学的研究、および染色体変異と地理的隔離による種分化機構の解明	g26825v

(岡山大学資源植物科学研究所)

グループ	教員 (★: グループリーダー)	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス (...@okayama-u.ac.jp)
光環境適応	坂本 亘 ★	教授	植物分子生物学 遺伝学	光合成と葉緑体の環境応答	saka
	小澤 真一郎	准教授	植物生化学 生理学	タンパク質科学に基づいた光合成の環境応答機構の解明	OzwSh1r
	桶川 友季	准教授	植物生理学	光環境ストレス下における植物の光障害防御機構の解明	okegawa
環境応答機構 研究	平山 隆志 ★	教授	植物分子生物学	高等植物のストレス応答の分子遺伝学的研究	hira-t
	森 泉	准教授	植物生理学	気孔運動や葉内 CO ₂ 拡散の生物物理学的解析	imori
	池田 陽子	准教授	植物分子遺伝学	植物におけるエピゲノム制御のメカニズムおよび環境との相互作用	yikeda
植物ストレス 学	馬 建鋒 ★	教授	植物栄養学	植物のミネラル輸送と制御	maj
	山地 直樹	准教授	植物分子生物学	植物の無機栄養素分配機構とその調節・制御機構の解明	n-yamaji
	三谷 奈見季	准教授	植物栄養学	植物のミネラル輸送体とその制御機構に関する研究	namiki-m
	小西 範幸	助教	植物栄養学	ミネラル輸送体の翻訳後制御機構の解析	Noriyuki_Konishi
植物分子生理 学	且原 真木 ★	教授	植物生理学植物 栄養学	塩ストレス応答や水輸送制御の分子および生理学的機能 解明	kmaki
	佐々木 孝行	准教授	植物分子生物学 植物栄養学	植物特異的リンゴ酸輸送体による環境ストレス適応	tsasaki
	宇都木 繁子	助教	植物分子生物学	種子形成過程におけるアクアポリンの水輸送調節メカニ ズムの解析	utsugi

(岡山大学資源植物科学研究所)

グループ	教員 (★:グループリーダー)	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス (…@okayama-u.ac.jp)
植物レジリエンス	木羽 隆敏 ★	教授	植物栄養学 植物分子生物学	植物の多量無機栄養応答の分子機構	kiba
植物・微生物相互作用	近藤 秀樹 ★	准教授	ウイルス学	農作物生態系におけるウイルス多様性とその生態学的な存在意義	hkondo
	兵頭 究	准教授	植物病理学 ウイルス学	植物ウイルスの複製機構	khyodo
	佐藤 有希代	WTT 助教	植物病理学、 ウイルス学	植物を病気にする菌と、その菌に感染するウイルスの関係性を解き明かす研究	y-sato
植物・昆虫間相互作用	GALIS IVAN ★	教授	化学生態学 植物-昆虫相互作用学	植食性昆虫に対する植物防御の分子機構の解析	igalis
	新屋 友規	准教授	植物免疫学 植物-昆虫相互作用学	植物の植食性昆虫による食害認識機構の解析	shinyat
植物免疫デザイン	河野 洋治 ★	教授	植物分子生物学 植物免疫学	免疫受容体と植物サイトカインを基盤とした植物免疫の理解	yoji.kawano
	日野 雄太	助教	植物免疫学	活性酸素を介した植物免疫制御機構の解析	hino.yut
	深田 史美	WTT 助教	植物病理学 微生物学	植物病原糸状菌の感染生理および植物との相互作用の解析	fumi.fukada
植物環境微生物学	谷 明生 ★	准教授	応用微生物学	植物共生細菌の分離同定・非培養的解析・メタノール資化性細菌	atani
	植木 尚子	准教授	植物分子生物学 遺伝子工学	赤潮原因藻ヘテロシグマの生態生理と増殖制御に関する研究	pdst7bim

(岡山大学資源植物科学研究所)

グループ	教員 (★: グループリーダー)	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス (…@okayama-u.ac.jp)
ゲノム多様性	久野 裕 ★	教授	植物分子育種 植物遺伝資源	遺伝資源と遺伝子改変技術を利用したオオムギの有用遺伝子の同定	hiroshi.hisano
	最相 大輔	准教授	植物育種 植物分子遺伝 集団遺伝	作物の遺伝的多様性を農業生態系への適応分化の観点から理解する	saisho
	山森 晃一	助教	植物遺伝育種学	葯と花粉に注目したオオムギの遺伝育種学的研究	k.yamamori
遺伝資源機能 解析	武田 真 ★	教授	植物遺伝育種学	オオムギの種子および植物形態に関する遺伝生理学的研究	staketa
	山下 純	助教	系統分類学	野生植物遺伝資源の収集, 保存, 系統分類及び絶滅危惧種保全研究	junyama
統合ゲノム育 種	山本 敏央 ★	教授	作物育種学	多様なイネ遺伝資源が持つ有用農業形質の探索と活用	yamamo101040
	長岐 清孝	准教授	分子細胞遺伝解 析学	動原体の解析および細胞遺伝学的エピジェネティック解析	nagaki
	古田 智敬	准教授	植物遺伝育種学	育種を加速させるバイオインフォマティクスツールの開発と利用	f.tomoyuki

(琉球大学熱帯生物圏研究センター)

教員氏名	役職	専門分野	研究内容	メールアドレス (...@cs. u- ryukyu. ac. jp)
瀬尾 光範	教授	植物生理 分子生物学	植物ホルモンの作用メカニズム、種子の休眠と発芽の制御メカニズム	mseo
岩崎 公典	准教授	遺伝資源応用学	ファイトケミカルの併用による新たな代謝調節誘導に関する研究	hiwasaki
高橋 俊一	教授	サンゴ礁生物機能学	サンゴと褐虫藻の共生に関する研究	tshun
梶田 忠	教授	マングローブ学	マングローブ植物の系統地理学的研究、熱帯植物の系統分類学的研究	kajita
渡辺 信	准教授	マングローブ学	空撮と 3D モデリングを用いたマングローブ生理生態研究	nabeshin
内貴 章世	准教授	多様性生物学	アカネ科を中心とした被子植物の植物系統分類学的研究	naiki